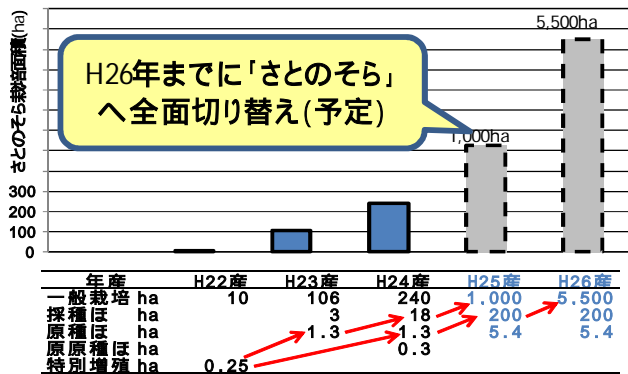


「さとのそら(利根3号)」の栽培法を確立して県産小麦を増やす!

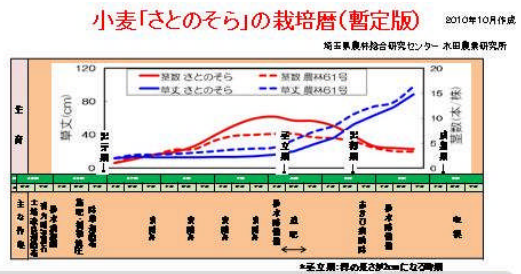
埼玉県の小麦主要品種である「農林61号」は、近年の温暖化(暖冬や集中豪雨)の影響により、年によって収量や品質がばらつくことが問題となっています。そこで、「農林61号」に替わる品種として、「さとのそら」の高品質栽培技術を検討し、19カ所の現地ほ場で栽培試験を行いました。

肥料(窒素成分)10~12kg/10aで栽培すると、平均収量は420kg/10aと「農林61号」より2割程度増え、品質も1ランク高くなり、生産量の増加と収益の向上が実証できました。現在、平成26年産からの転換を目標に、種子の増殖が進められています。

「さとのそら」の栽培面積と種子特別増殖



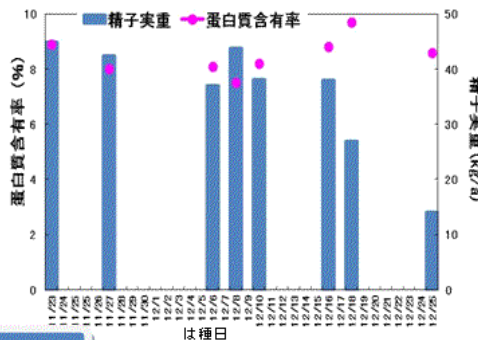
栽培暦の作成・配布



- 「さとのそら」の品種特性 - 「農林61号」との比較-
1. 草丈は低く推移し、穂長は約10cm短い。穂長は同程度〜やや長い。
 2. 分けつは旺盛で葉数は多く、穂数は1割程度多い。目標穂数は600~650本/m²。
 3. 着立期は7日程遅い。出穂期は1~2日、成熟期は1~3日早い。
 4. 外観品質は同程度〜ややすぐれる。灰分は低い。追肥によりタンパク質含量は高まりやすい。容積重は同程度〜やや軽い。穂熟耐性は強い。
 5. アミロース含量は同程度で、製粉性はすぐれる。うどんほめん色がややすぐれ、食感も同程度。



10ha 規模の現地試験



肥料会社と共同開発



現地検討会・栽培研修会の開催



12月中旬播で収量が低下

「さとのそら」専用肥料作成